

埼玉県立川の博物館周辺の両生類・爬虫類相の追補

藤田宏之(川の博物館)

はじめに

川の博物館周辺における動物相に関する調査は、藤田・石井が両生類相(2010)、爬虫類相(2011)、哺乳類相(2012)を報告している。両生類・爬虫類相について、報告後も継続していた調査で確認された種があり、以下に記す。

調査の方法

調査エリアは川の博物館敷地内および周辺域で、河川、河原、道路、斜面林を含んでいる。定期的な調査ではなく、筆者の観察記録が主となり、川の博物館全職員、川の博物館ボランティアによる捕獲や情報収集の記録を含んでいる。

結果

確認地点は図1に記した。結果前回報告では確認できなかった2種が確認された。無尾目1種、有鱗目トカゲ亜目1種である。

シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii*

2012年5月4日にA地点人工池付近(写真1)で1個体のオス鳴き声を確認した。その際生体を搜索したが、確認に至らなかった。

また、後日鳴き声が確認した周辺にて卵塊ならびに幼生を搜索したが確認に至らず、繁殖はしていないと考えられる。

ニホンヤモリ *Gekko japonicus*

これまで近隣の学校や2011年には敷地内に生息しているとの情報があったが、確認には至らなかった。翌2012年9月16日、B地点車庫付近の放置された朽木の下で幼体を確認した。さらに同年10月14日にB地点車庫の壁面で成体を確認した。また、同年12月15日にはA地点のエアコン室外機付近の角材の下にて成体(写真2)確認した。

B地点では成体ならびに幼体が確認されていることから、繁殖している可能性がある。

考察

シュレーゲルアオガエルは、低山地や丘陵地の里山など、林地に接した水田の畦や湿地

で多く生息しているが、『埼玉県レッドデータブック2008』(埼玉県, 2008)では地帯別危惧に指定され、特に県東部・南部では減少していると考えられる。

寄居町内では中里(1981)は確認できていない種として挙げているが、筆者は近年町内の小園、西ノ入、金尾の各地区で確認している。他地区においても水田や休耕田など広くに生息していると考えられる。

しかし、川の博物館敷地周辺では鳴き声の確認のみで、生体および繁殖は確認されていない。シュレーゲルアオガエルと同様に、主たる繁殖場所を水田とするニホンアマガエルは鳴き声、生体は確認されたものの、繁殖は確認されていない。また、トウキョウダルマガエルは鳴き声、生体も確認されていない。川の博物館敷地周辺は上記3種にとって繁殖に適していない場所と考えられ、本調査で確認された個体は、河川の増水時に流下など何らかの原因でたどりついた個体と推測する。

ニホンヤモリは、人工の建造物をすみかとし、民家や倉庫などおもな生息場所としている(太田, 1996)。B地点(写真3)の車庫は外灯に餌となる数多くのトビケラ類など昆虫が集まり、身を潜めるのに適当な隙間がある。特に朽木と建物の隙間(写真4)は適した環境といえる。

『埼玉県レッドデータブック2008』(埼玉県, 2008)では準絶滅危惧に指定され、減少が指摘されている。しかし、市街地では過去に記録がなかった東松山市(桑原, 2011)など新たに確認されている。また、筆者は山地に近い皆野町三沢地区にて2012年7月4日に確認していることなどから、近年広範囲で新たに記録され、分布が拡大している可能性がある。

太田(1996)は、冬の間おもに民家の壁の隙間や天井裏に潜み、暖房など人為的な熱源を利用して過していると述べている。さらに太田(1996)は、冬眠するための穴掘りが苦手であり、熱源がなかった時代には、越冬できなかったと述べている。

近年は保温性の高い建材や暖房などにより、

埼玉県内ではニホンヤモリが越冬可能な環境が広範囲に及び、物資の移動などに紛れ込んだ個体が定着している可能性がある。今後も新たな確認記録が得られると考える。

最後に、博物館などが情報収集に努め、自然誌資料として記録を残すことに加え、継続調査により経年の変化をとらえることは今後も必要なことと考える。

謝辞

江刺秀一氏には調査および写真撮影に協力いただいた。また、川の博物館職員諸氏、川の博物館ボランティア諸氏には調査協力および情報提供をいただいた。上記の方々には感

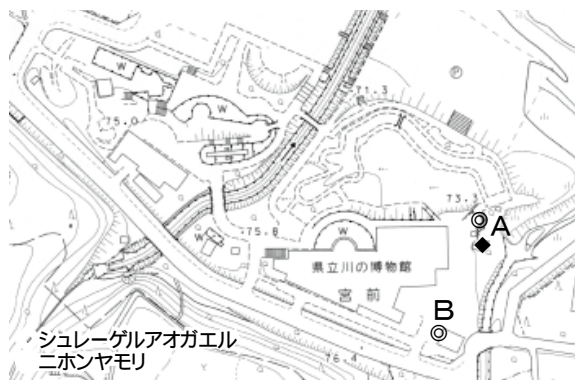


図1 両種の確認地点



写真1 シュレーゲルアオガエルを確認したA地点の人工池付近



写真3 ニホンヤモリ成体を確認したB地点車庫と外灯

謝を表す。

引用文献

藤田宏之・石井克彦(2010)埼玉県立川の博物館周辺の両生類相. 埼玉県立川の博物館紀要10:1-4.

藤田宏之・石井克彦(2011)埼玉県立川の博物館周辺の爬虫類相. 埼玉県立川の博物館紀要11:1-4.

藤田宏之・石井克彦(2012)埼玉県立川の博物館周辺の哺乳類相. 埼玉県立川の博物館紀要12:1-4.

桑原幸夫(2011)東松山市からヤモリを発見. 埼玉動物研通信69:7-8.

中里邦夫(1981)寄居町に生息する動物 爬虫類・両生類. 寄居町史資料集 寄居町の自然 動物編. 寄居町教育委員会, 寄居, pp33-38.

太田英利(1996)ヤモリ類. 日本動物大百科5 両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社, 東京, pp65-67.

埼玉県(2008)埼玉県レッドデータブック2008 動物編 爬虫類. 埼玉県環境部みどり自然課, さいたま, pp108-111.



写真2 A地点で確認されたニホンヤモリ



写真4 ニホンヤモリ幼体を確認したB地点車庫と朽木